

楽しくて力のつく学校

石部小学校 校報第80号

平成 27 年(2015 年) 9 月 1 7 日

電話：77-2030

Fax：77-6733

朝夕めっきり涼しくなってきました。二学期が始まり、二週間余りがすぎました。子どもたちは元気です。一年で最も長い二学期、心身ともに充実した学期となるよう願っています。

さて、先週 11 日(金)、17:30 より開催しましたスクールガード研修では、見守りボランティアの皆様にご多数お集まりいただき、昨年と同様、市スクールガードリーダー・松尾裕様のお話を聞いていただきました。今年は、昨年神戸で起きた実際の事件を事例としてあげながら、事件の未然防止についてわかりやすくご説明いただきました。大変重要な内容ですので、以下に掲載させていただきます。

スクールガード研修より

1. 昨年、神戸市長田区で発生した小1 女児 IM ちゃんの殺害事件から

9 月 1 1 日は、事件から丁度 1 年がたつ日ということで、事件の経緯や犯人像にふれながら、このような事件の再発防止にかかわって、いろいろな課題を教えてくださいました。

<事件の経緯や犯人像>

事件当日、被害者 IM ちゃんは、下校後祖母宅へ行き、午後 2 時 4 5 分ころランドセルを置いて、友だちと遊ぶために外へ出た。午後 5 時 3 0 分には、近くの県立高校のグラントを歩いていたのが確認されている。保護者から捜索願いが出されたのが午後 7 時 3 0 分。少なくとも約 3 時間外をぶらぶらと歩いていたことになる。M ちゃんは、普段から町をうろろしていることが多かった。友だちの家に行くことも多く、晩ごはんをいただいていることもあり、交番に預けられていることも度々あった。学童保育の制度も利用されていなかった。

一方、加害者は前科があり、平成 2 5 年に刑を終えて出所したのち、一人でアパートで暮らしていたが、出所してから事件を起こすまでの約 1 年ほどの間に、「救急車のピーポの音がうるさい」「猫の声がうるさい」「隣がうるさい」などの苦情を 2 6 0 回にわたり、警察に 1 1 0 番通報をしていたことがわかった。

<課題>

- ①今年の寝屋川の事件も同様、子どもの安全を守るための保護者としての責任が果たされていない。絶対に夜に子どもを出歩かせてはいけない。
- ②捜索願いが夜の 7 時 3 0 分まで出されなかった。母親と祖母はもっときちっと連携・連絡を図らなければならなかった。
- ③学校は IM ちゃんの普段の行動を知っていたのだから、保護者に対して改善を図るよう指導すべきだった。また、防犯教育の徹底も必要だった。
- ④学童保育の制度の利用も行われていなかったことから、教育委員会は民生児童委員が積極的に関与できる道筋をつけるべきであった。
- ⑤警察はこのような事件が起こりうる状況を十分に知り得る立場にあったのだから、防犯活動を行わねばならなかった。
- ⑥スクールガードは、交通安全指導に加えて、防犯活動を行うべきだった。

以上のように、保護者・学校・関係機関の課題を整理してお示しいただきました。子どもを守るためには、それぞれがそれぞれの立場で責任を果たしつつ、かつ、問題を提起しあうことが肝要であることを学びました。

2. 不審者とは? ・必ず下見をしていて、人目につかないような場所で待ち伏せしている。

○どんな人?

- ・気味の悪いような人
- ・無理に目をそらす人
- ・ウロウロしている人
- ・物陰に隠れている人
- ・車輦の中でキョロキョロしている人
- ・棒や刃物をもっている人

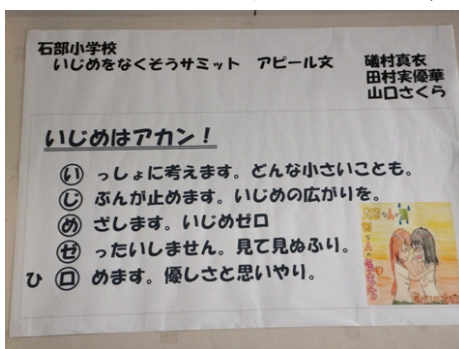
○どこにいるの? ・入りやすく見えにくい場所

- ・公園
- ・神社
- ・広場
- ・人通りの少ないところ
- ・街灯が少ない暗い道

- ・警備員がない駐車場やガソリンスタンド
 - ・落書きやゴミが放置されているところ
 - ・屋外にある公衆便所や大型店舗の公衆便所
- 不審者に出会ったら
- ①声をかけられたら距離をとる（1m以上）。長話はしない。ついていかない。車に乗らない。
 - ②「助けて！！」と大きな声でいう。30m以上ダッシュして走り去ること。
 - ③人家や子ども110番の家に逃げ込む。
3. 子ども被害に係わる犯罪抑止の基本的な考え方について
- (1) 保護者・・・危機意識と保護責任
保護者は常に危機意識をもつこと。「誰とどこで何をして遊ぶのか。いつ帰るのか。」を必ず言わせることの習慣づけを。
 - (2) 学校・・・安全教育の徹底
子どもたちに「自分の身は自分で守る」ことの意識を徹底させること。
 - (3) 地域・・・安全なまちづくり
犯罪心理をよく知った上で取り組むこと
※犯罪者は人目につくこと、照明の明るいところ、大きな音や大きな声をいやがる。
4. スクールガードの街頭活動について
- (1) 不審者を発見したら
・子どもを不審者に近づけない。 ・声かけはしない、追いかけない。 ・110番
 - (2) 交通指導
・車道に出てガードするのは危険。 ・車が止まったのを確認して横断させる。
・引き逃げがあっても追いかけない（被害者の保護に徹すること）。



夏休み～子どもたちはいろいろな経験をしました。 「いじめをなくそうサミット」



7月31日（金）、石部中学校ドリームホールにて「平成27年度・いじめをなくそうサミット」が開催されました。本校からも6年生3名が参加し、他校の児童たちと討論しながら、「いじめをどのようになくしていくか」について考えてくれました。



左は児童昇降口に貼っている「アピール文」です。

「いしべっ子・夏休み宿題教室」「郷土資料博士になろう・パート2」

夏休み、CS学習支援委員会の皆様を中心になって、「いしべっ子 夏休み宿題教室」と「郷土資料博士になろう・パート2」を実施していただきました。

「石部まちづくりセンター」を会場にして実施された「いしべっ子・夏休み宿題教室（5日間10講座）」には、延べ166名の児童が参加し、地域の方々（26名の学習ボランティアさん）に教えていただきながら、夏休みの宿題や自主学習に熱心に取り組みました。

子どもたちの頑張る様子に地域の方々も大変感心され、そして、喜んでいただきました。今年度の反省を生かしながら、さらに充実させることができるように、来年度の取組を考えていきたいと思っています。

「郷土資料博士になろう・パート2」は、昨年と同様、「夢づくりいしべ」の皆様を講師としてお迎えし実施しました。校長室前の廊下に、学習の成果としての「壁新聞」を掲示しています。「体験活動」「調べ学習」を二本の柱としたこの取組は、「郷土に興味関心をもち郷土について語れる児童」の育成を目指していきます。

※活動の様子については、別紙・コミュニティー通信「さんぽ」に掲載しています。

「市小学校児童会リーダー研修会・Junior Red Cross Training Center」

8月5日（水）、雨山研修館において、JRCのリーダー研修会が開催されました。この研修会は今年で11回目を迎えました。本校からは5年生4名が参加し、「青少年赤十字の実践目標」のもと、「他校児童との交流」や「健康安全プログラム」に取り組みました。

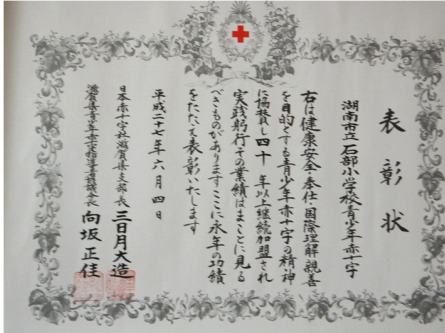
「青少年赤十字」は、第一次世界大戦後、子どもたちが学校で書いた作文や絵・学用品を集め、加えて、包帯・机・いすなどを買うお金までも集めて赤十字社へ持って行き、戦争の犠牲により困っている人たちに届け大変喜ばれたことから、



子どもたちのこのような活動と「赤十字の心」が結びつき、1922年につくられたとのことです。

実践目標として、①生命と健康を大切にする。＜健康と安全＞②人間として社会のため人のために尽くす責任を自覚し実行する。＜奉仕＞③広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う。＜国際理解・親善＞の3つが掲げられています。

日本では約10,500校が、この青少年赤十字に加盟しています。石部小学校も加盟校の一つであり、今年の6月、「40年継続加盟校」として表彰していただきました。



全国学力学習状況調査の結果より

8月下旬、全国学力学習状況調査の結果が発表されました。学力調査の結果については、現在校内で分析を進めています。どのような力が伸び、どのような点で課題があるのかについては次号でお知らせします。今日は、学習状況調査の結果を振り返り、その課題について考えたいと思います。

まず、良かった点ですが、①「学ぶ力」の根っこになければならない力が身につけてきたことです。「失敗を恐れなくて挑戦する」「友だちの前で自分の意見や考えが発表できる」「将来の夢や目標をもっている」等の項目で、肯定的な回答をした児童の率が高まってきました。また、②「生活の中で学ぼうとする力」も高いです。学級の中で、協力したり話し合ったり自分の考えを深めたり広げたりできると回答した児童の率はとても高くなっています。3つ目は、③国語や算数の授業が将来社会に出たときに役に立つと回答した児童の率がぐっと高くなってきたことです。特に、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っているか」の問いに対して、大変多くの児童が「行っている」と回答していることから、学校で進めてきた授業改善の成果が現れてきたものと思っています。

課題として挙げられることは、①自主的な学習姿勢の弱さです。自分で計画を立てて勉強したり、授業の予習をするといった点で、全国平均とは有意差が見られます。「家庭学習強化週間」では、保護者の皆様と協力して取り組みを進めているところですが、なお一層の連携と工夫が必要であることがわかります。二つ目は、先ほど、良かった点として、「学ぶ力の根っこ」が育ってきたと述べましたが、②「学ぶ力」の最も根っこになければならない「自尊感情」は残念ながら低くなっています。「自分にはよいところがある」と回答した児童の率は、全国平均をかなり下回っています。3つ目は③授業時間外での読書量が少ないこと。4つ目は、④地域行事への参加率が大変低いことが挙げられます。

課題として示しましたことは、すべて、学校・家庭、そして、地域が連携して取り組むことが必要なことばかりです。未来を担う「いしべっ子」を育てるために、「連携」と「協働」の教育のあり方を皆様とともによく考え、一層推進していかなければなりません。



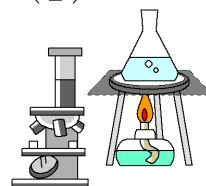
P T A環境整備作業・・・二学期を目前に控えた8月23日、大勢の保護者の皆様のご参加を得て、学校をとってもきれいにさせていただきました。本当にありがとうございました

<左 9月17日現在、新校舎建築の様子です。>

石部小CS学校運営協議会より

7月以降のCS理事会および各委員会の開催状況および予定について

- 7 / 16 (木) 第4回校外生活支援委員会
横断歩道等渡り方指導の実施について
- 21 (火) 第1回拡大理事会
各委員会の理事・運営委員の双方が出席して
拡大理事会を開催。各運営委員会の活動につ
いて成果と課題を報告
- 8 / 26 (水) 第3回体験的活動支援委員会
11月26日に開催する5年生の餅つきについて
- 27 (木) 第7回学習支援委員会
「いしべっ子・学習教室(夏休み実施分)」の成果と課題
「わくわく科学実験教室」の応募について・・・(1)
- 9 / 15 (火) 第2回理事会(兼:教育委員会と教職員、地域の方々との懇談会)
教育委員さんに本校の学力向上の取り組みを報告
今後のCS運営について
- 17 (木) 第5回校外生活支援委員会
横断歩道等渡り方指導の総括とマニュアル作成・・・(2)
こなん子110番の設置について・・・(3)
- 10 / 29 (木) 第8回学習支援委員会
ロボット教室の応募について・・・(4)
- 11 / 7 (土) 引き渡し訓練への参加・・・(5)



※注(1)

「わくわく科学実験教室」は、9 / 19、10 / 3、17、31 の計4回、石部小学校理科室で開催します。

※注(2)

子どもたちが「協力して自ら安全を確かめながら登下校する力を身につける」よう、校外生活担当委員会の皆さんが、登校時、横断歩道等で評価活動を行ってくださっています。評価の観点は、①班全員がかたまっって一列に並んでいるか。②道を渡るときに、班長が自動車から見えるように旗を出し、渡り終わったらお礼ができていますか。③班長が旗を出すときに、副班長が先頭を歩いているかの3つです。「3つともできていれば○」「1つでもできていないものがあれば△」の評価が出ます。今後はこの活動を広め、「子どもたちが自ら身を守る力」をつけていくことを目指しています。

※注(3)

スクールガード研修の項でも書きましたように、不審者に出会ったときに、本当に逃げ込める「こなん子110番」のお家の確保が喫緊の課題になっています。校外生活支援委員会の皆さんが、このようなお家を探してくださっています。いよいよ「こなん子110番」の設置というときには、PTAのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

※注(4)

ロボット教室は、11 / 28、12 / 12、26 の計3回、まちづくりセンターで開催予定です。

※注(5)

近年の自然災害は、かつてない大きな被害をもたらすものへと変わってきました。CSとしては、いざというときに学校・家庭・地域がどのように連携して子どもの安全を確保するかが大変重要な課題であると考えています。

まずは、今まで本校で実施してきた「引き渡し訓練」に理事会・運営委員会の皆さんにご参加いただき、災害時における学校・家庭・地域の連携の仕方を模索していきたいと考えています。

